



2021年6月14日

日本鉄道労働組合連合会

第77回JR連合国会議員懇談会

**ピンチをチャンスに！ポストコロナに向けた政策提言
「将来を見据えたJR産業のあり方と私たちの働き方(案)」を共有**



6月8日、榛葉賀津也会長（参・静岡）をはじめとする議員懇所属議員8名全員が出席し、第77回JR連合国会議員懇談会を開催した。この間、国会質疑や要請行動などでJR産業の政策実現に様々なかたちでご協力・ご支援いただいている議員らに対し、JR連合から、厳しい局面に直面しているJR産業が苦境を乗り越え、将来における持続的な成長と働く仲間の安心を取り戻すため、ポストコロナに向けた政策提言「将来を見据えたJR産業のあり方と私たちの働き方(案)」を提起した。

冒頭、榛葉会長は、「明けない夜はない。早くコロナ禍に打ち勝って、様々な税制や支援策を実現していきたい」と力強く述べた。続いて、荻山市朗JR連合会長からは「今、JR各社はあらゆる自助努力を行っているが離職も増加しており、人材劣化が懸念される。サービス連合と航空連合と連携し、3産別で要請行動を展開しているところであり、需要回復に向けて国をあげて、①移動や観光に対する不安を解消し安心利用を促進する実効性ある取り組みと、②移動需要を段階的に喚起し安定化させる長期的な支援策を求めていきたい」と述べた。

協議事項では、今回のコロナ禍を大きな社会の転換点として捉え、JR産業にとっても大きな節目とすべく、新たな政策提言「将来を見据えたJR産業のあり方と私たちの働き方(案)」を第31回定期大会で提起し、今後労使での議論を深めるとともに、実現に向けて政治・行政への働きかけを行う取り組みを共有した。また、経営支援や助成制度の構築にむけた要請行動に引き続き取り組むことを確認するとともに、JR二島・貨物経営自立実現PTの今後の進め方等を確認した。引き続き議員懇所属議員との連携を強化し、JR産業が抱える課題の解決にむけて取り組んでいく。